

国語科学習指導案

八尾市立八尾小学校

指導者 山下 愛美

1. 日 時 令和6年9月19日 第5時限 13:45～14:30

2. 場 所 第2年4組教室

3. 学 年 ・ 組 第2学年4組(28名)

4. 単 元 名 「読んで考えたことを話そう」

教材文：「どうぶつ園のじゅうい」植田 美弥(光村図書)

5. 単 元 目 標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
◎文の中における主語と述語の関係に気付くことができる。 【(1) カ】 ○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 【(2) ア】	◎文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。 【C 読むこと(1)オ】 ○時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。 【C 読むこと(1)ア】	・言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

6. 本単元で取り組む言語活動

単元で学習したことをもとに、筆者の心の中を表した言葉を文章に付け足し、より分かりやすい教科書を作ろう。

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 文の中における主語と述語の関係に気づいている。 ② 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	① 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 ② 「読むこと」において、時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えている。	・本文と自分の体験を結び付けて本文を読み、学習の見通しをもってねばり強くとりくんでいる。

8. 指導にあたって

(1)児童観

本学級では、楽しんで国語科の学習にとりくんでいる児童が多い。文学的文章「ふきのとう」や「スイミー」では、言葉のもつリズムや表現の面白さに気付き、気付いたことは共有し、繰り返し音読することで表現できていた。その過程で、本文に書かれていない登場人物の気持ちや場面の様子を想像し、交流する姿が多く見られた。

説明的文章「たんぼぼのちえ」の初発の感想において、児童は「書いてることわからん。」「ふーん。」「たんぼぼってかしこいねんなあ」と様々な反応を見せた。「黒」と「黒っぽい」の違いは何かを言葉にし合ったり、ぐったりとした様子からぐんぐんのびる様子を体で表したり、「黄色いきれいな花」が挿絵の中でどう変化していくかを注意深く見ていたりする中で、だんだんと「何のためにたんぼぼのちえはあるのか」に迫っていった。文学的文章の学習と同様に吹き出し法を用いて、「今はじっとして、たくさん栄養をたくわえるときだ。」「きょうは晴れているから、遠くまで行けるぞ。そこでなかまを増やすんだ。（次の春に）みんなで飛べるのが楽しみだなあ。」と、たんぼぼになりきって振り返りを行い、共有し合った。言葉にこだわり、順序を表す言葉に着目して理解していき、情感を持って読みすすめることができた。

児童はこれまでの学習から、題名・見出し・本文の言葉・写真などを手がかりに、内容把握を行う習慣が身に付いてきている。しかしインプットする力が少しずつ付いてきた一方で、アウトプットすることに課題が見られる。基礎的な課題として、書き言葉・話し言葉とも主語と述語の係り受けが適切でない児童が多い。「土曜日、ぼくは、友だちが遊びにきそいに来てくれました。」のように、「ぼくは」に対する述語が消失することがある。自分がどのような表現をするときも主語と述語を意識すること、伝える順序に気を付けることが、正確に情報を伝える上では重要であると、児童自身で気付けるように繰り返し指導していきたい。

(2)教材観

本教材は、動物園の獣医師である筆者が一人称で書く「はじめ」「中」「終わり」の構成からなる説明的文章である。「はじめ」には「ある日のわたしのしごとのことを書いてみましょう。」という一文があり、読み手を引き付けながら話題提示をしている。「中」では時間的順序に沿って、獣医の仕事とそのわけや工夫を分かりやすく説明している。「おわり」は「これで、ようやく長い一日がおわります。」の一文をまとめとしている。

「中」に書かれている仕事の内容は「毎日する仕事」と「この日だけした仕事」の2種類があり、事柄の順序に従って文章が分かりやすく展開されている。時間を表す言葉が各段落の初めに書かれており、順序もとらえやすい。登場する動物はにほんぎるやペンギンなど2年生児童が好きな動物で、挿絵・写真も豊富なため、親しみを持って学習にむかえる。「なぜかという」「からです」「～ので」など、理由を表す言葉が多いため、筆者がなぜその仕事をするのか、言葉からわけを読み取りやすい。

本単元でつけたい力は、読んで考えたことを表す力である。そのため、自分の体験と比べたり、想像したりしながら本教材を読み、筆者の気持ちを書き、共有をうながしていく。読む際には「おぼえてもらう」「のみこんでくれました」などの表現から、筆者の動物に対する温かい愛情

が感じ取れることに気付かせたい。

(3)指導観

「より分かりやすい教科書を作ろう」を単元のゴールとして、本単元の授業を展開していく。今回の「より分かりやすいこと」は「より筆者の心情が分かりやすいこと」と設定し、筆者の心を想像して文章を付け足していく。当初は二次で「一番大変なしごととは何か」を考える活動を通して、筆者の仕事への熱意や動物への愛情を確かめていく予定であった。しかし児童は1学期から吹き出し法を用いて学習をすすめてきたため、本単元でも同じようにすすめることにした。

第一次では、遠足で訪れた天王寺動物園での出来事を想起する。天王寺動物園の動物の生活は「飼育員」や「獣医」といった仕事の人々に支えられている。その人たちは、どんな仕事をしているのだろうか？ と興味を持たせることを本単元の入り口としていく。動物病院と動物園の獣医の違い、獣医の1日の仕事についてなど、筆者の仕事について考えると同時に順序や理由を表す言葉にも注目しながら全文を読む。毎日行う仕事は見回りをする・日記をかくこと・お風呂に入ること。この日だけした仕事は動物たちの診察、またその治療である。どんな状況で、どんな思いを抱きながら筆者が仕事に臨むのかを想像できるようにし、初発の感想を持たせたい。初発の感想から問いを持つ段階では全体で感想を共有した後、学級全体の問いを持ち、第二次で解決していくことを確認する。

第二次では、「より分かりやすい教科書を作ろう」という単元のゴールを提示し、学級全体の問いを解決していく。そのために各段落の「工作中的筆者の気持ち」「一日を振り返ったときの筆者の気持ち」の双方を想像する。想像するためには何度も本文に立ち返る必要がある。主語や述語、時間的順序を考えながら、獣医の1日の仕事を正しく読み取らせていきたい。また、想像を広げ、理解を深めるために、文章の内容と自分の体験と結び付けたり対比させたりする。児童自身の係活動やお手伝いの仕事の体験、自分が病気になったときに治療を受けた体験、ペットに薬をあげた体験など、自分の体験を思い出すことで、より筆者の心情にせまることでできると考える。

第三次では、二次で想像したことを文章に書き足し「より分かりやすい教科書」を作っていく。学習してきた全ての段落の中から、筆者の仕事に対する思いが一番感じられる段落を選ぶ。筆者の思いとは、筆者の動物に対する愛情、動物を絶対に助けるという獣医としての責任感などである。その段落が自分の書き足したい段落と同じとは限らない。意見を交流し、「より分かりやすい教科書」として筆者の心を書き足す段落を改めて選ぶ。

児童は「教科書は完成されたもの」と考え、戸惑うこともあると予想される。そのため、「筆者はどんな状況で知らせを受けたか」「そこに行くまでどんな気持ちだったか」「治療中はどう思っていたのか」「治療が終わったあとに感じたことは」と、気持ちを表すための手がかりを示し、支援していきたい。書き表したあとの下書きは、友だちと読み合い、意見交換をする。良かった点を中心に交流するが、「自分はこの段落では筆者はこう考えていると思った。だから参考にしてみてね。」というような具体的なことが伝え合えるよう支援していきたい。

9. 単元の指導と評価の計画（全14時間）◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

次	時	主な学習活動	知技	思判表	主体	評価規準・評価方法
1	1 2 3	・「どうぶつ園のじゅうい」がどのような内容か、獣医の仕事の内容は何かを予想した後、全文を読む。 ・仕事がいくつあるか確認したり、毎日の仕事とその日だけの仕事に分けたりする中で、気になったことなどを初発の感想としてまとめる。 ・初発の感想の交流をしながら、問いを確認する。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	
2	4 5 6 7 8 9	・叙述に基づいて、筆者や飼育員の言葉、治療の様子を整理する。 ・筆者がどのような思いで仕事に向かっているのかを想像し、吹き出しに書き表す。 ・問いに対する答えを確認する。 ・書いたことを交流し、筆者の視点で振り返りを行う。	 ◎ ○ ◎	○ ◎ ○ ◎	 ○ ○ ○	・工作中的の筆者の気持ち、一日を振り返ったときの筆者の気持ちを、筆者の視点で想像し、書くことができる。 【知・技】① 【思判表】②(ノート)
3	10 11 12 13 14	・筆者の仕事に対する思いが一番感じられる段落を選ぶ。 ・選んだ段落とその理由を交流し、書きたす段落を選ぶ。(本時) ・筆者の心の中を表した言葉を文章に書き足す。 ・書き足した文章の下書きを友達と交流し、意見交換をする。 ・交換した意見を自分の文章に反映させる。	○ ◎ ○ ○ ○	○ ◎ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ◎	・筆者の心の中を表した言葉を文章に書き足すことができる。 【知・技】② 【思判表】①(ノート) ・交換した意見を自分の文章に反映させることができる。 【主体】①(ノート)

10. 本時の展開(11/14時間目)

(1) 本時の目標

・より分かりやすい教科書を作るために、交流したことをもとに書き足す段落を選ぶことができる。

【思考・判断・表現】

(2) 本時の評価規準

・より分かりやすい教科書を作るために、交流したことをもとに書き足す段落を選ぼうとしている。

(3) 展開

主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1. 前時までの学習内容を振り返る。単元のゴールの確認をする。 2. 筆者の思いを一番感じられる段落を前時で選んだ。その理由を全体で交流する。 3. 本時のめあてを知る。	・学習してきたことを振り返らせる。 ・キーワードを整理する。	
こうりゅうしたことをもとに、書きたすだんらくをえらぼう。		
4. 書き足す段落を選ぶ。 5. 書き足そうと思った決め手を交流する。	・筆者の思いを想起させ、交流をもとに書き足す段落を選ぶよう支援する。	・自分の選んだ理由と比べながら聞くことができる。 【思・判・表】 ・交流したことをもとに、書き足す段落を選ぶことができる。 【思・判・表】

本時における具体的な児童の状況(※本時の評価規準に関わる場面において)

おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
選んだ理由を考え、交流することができる。 かつ、書き足す段落を選ぶことができる。	交流して、良かった内容をもとに書き足す段落を選べるように促す。

はじめのかんそう

①思ったことかんだことびっくりなこと

②分からないことも知りたいこと

②見回る

③いのしし

④にほんざる

⑤ワラビー

⑥ペンギン

⑦日記

⑧おもしろ?

おわり

中		（北め）
9	8 7	1 毎日
	6 5 4 3	この日だけ

へじゅうい

しーくん ナン

じゅうい ナン

どつぱつたちが元気にくらせるようにするべし

うえだみや

ひゃ =

おじやん

⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	⑨
せたいかならず。	まちの人のこともまてい。 どついてもかなしむ。	たぐさんのしことがあ日記をそれれ書いて まちの人のこともまてい。 どついてもかなしむ。	はいきんが入るんでぶくり。	にがいあじとあま、あじを分けてしるが、にがいあじかほまにが、あきしめすにくいつてくすりをまざるが、のみこんでくれるほどはいきんが入るんでぶくり。	「やぐる」 「きかいを当てて、赤んこのことを見ている。」	見回りをしてくれている。	分かったことぶくり	め かんきつをこうりつしよう。 うえだみや文 ふしぎ、 分らないこと ちりょうのしかた つえださんはなせそんなにがんばるの？
おるはしことかな。	ほかのどうぶつのはたべものは？	はかのどうぶつのはたべものは？	ワラビでどんなどついつたのだらう。 はいきんが人間と入るやすう、ちりょうのしかたは？なせ？ とり出した方は？はなせのみこになたか。	くすりの色、形は？	どつやっておなかの中に赤んがいるのをしるべたのか。 いのしの赤んはどつだのたらう。 どつだのたらう。 くすりの色、形は？	どつやっておなかの中に赤んがいるのをしるべたのか。	ちりょうのしかた	め かんきつをこうりつしよう。 うえだみや文 ふしぎ、 分らないこと ちりょうのしかた つえださんはなせそんなにがんばるの？

どつどつどつ園のじゅっい
うえだみや文

たん元のゴール

より分かりやすい教科書にしよう。

(め)朝ひびはなを考えていたのかそうぞうしよう。

朝	つ	たれ	しと	りゆう
		みんなどうぶつ園を負回る	びやう気になたときすにれづきかてんから顔を見せられもろうため	

なれてもらふ。
おぼえてもらふで。

・なれさせるだと、どつどつが人間の心が分かるとしたら、いやだから、つよく言ったら、どつどつにつたわる。かっているどつどつとはちがつ。

(すき) ・どつどつをばんに考えている。

「おはようって言いに行かなきゃ」
③ぜんいんに言うぞ
〇〇だいじゃぶかな。
〇〇が元気ないなあ。
〇〇は顔や声をおぼえてくれるかな。
きのうより、〇〇の元気はない。

どうぶつ園のしゅうい
うさだみや文

④見回りがおわるころ、ひしは
かほを考えた。いたが、そつぞうしよう。

毎日朝	みんな	どうぶつ園を見回す	ひょう気になどきまに気づくことができなかった。ふたから顔を見せられもしたため	毎日、おはよう。とって声も聴かずおぼえてしまつた
見回りがおわるころ	いのしし	おなかにかきを当てる	おなかの中をきくため	これからいいようえんを食べさせ、そとまかせをやる

しいくんさんのしごと
エサをあげたり
へやのそつじをしたり

これからいいしよ、あんまりいたくないかな、やさしく赤ちゃんもかんはれ。
大じょうぶだよ。
いしはにがんばろうね。

あのあと、いのししさん、赤ちゃん
はねられたかな。
赤ちゃんが生まれるのは、
うれしけど、けががないよう
生ませてあげたいな。

どうぶつ園のじゅっ、
うさだみや文
⑥にほんぎるのちりよつをしてる
ひしゃの気もちをそつぞつしよつ。
にほんぎるがどせて食べたか
日記に書こう。けがかなおたら
くすりをもなめていいい。
えきの中に入れたのに、んてくれる
のがある。
「アイテアないかなあ。」
↓食べやすくて、あまじもの
「どうぶつのけがかなあろうあまらめはい
や」とのんでくれたほかのどうぶつも
くすりをよくのめたね
じぶんもくるしいけど、どうぶつのみんな
考えている。

カサ西
にほん
ぐすり
のませる
から

にほんぎる、くすりのところだ
けよけるなんて頭がいいな。
くすりをのんでくれてよかったな
あしたにもにほんぎるにくすりを
のませるぞ、のんでくれるかな。
これからもあきらめずにがん
ばろつ、わたしもがんばった。
← おくすりのませるの大へん
だらだな。

どろろ(素)のじゅっし
うえだ みや文

④ ワラビーのちりよつをしようとするときの
ひしゃの気持ちもそれをそうぞうしよう。
したくないからあんしんしてね。
もうちなどだからがまんしてね。
「これけどがんばらう。今からおそ
るぞうだもん
みんなおうえんしていろよ」
しんなうに、そーと。
うづいたうけがしたやつ。
すき、早くなおしたい。
「うづしないといけない」

日記に書いておこう

お昼もワラビーはきのはき、がはれ、た
ちりよつから

三人のしくいん
さんにおえて
もらた。

⑤ 今ごろあんしんしてねおれや
いるかな。
ちりよつできて元気になるて
よかた。
あしたの見回りで、ワラビー
を見に行こう。
はがぬけるときばいきんがまた
入らないかな。
ワラビーとてまがんばったな。

どうぶつ園のじゅい
うえだみや文

(め) ペンギンのもりよづをするひらしゃの
気もちをそつぞうしよう。
今すぐ行かなくや。
いそげいそげ。大へんだ。
びくり

ホールペンはどこう。
口の中につまんでいるどくしやつ。
ていねいに、できるだけ早く。
今すぐびりりん。

早めに手当てできってよかった。
もうこわくないよ。
たすかだよかった。

夕方 この日 17	夕方 この日 17	ワッピ はきのほきがはれて、た ちようから	三人のしくいん さんにおきて もつ。
ペンギン ホルベンをとりまわりのせんがあるから。	ホルベンをのんで いることをしんじてもう ねよう。		大いそぎなう いんにはえた。

ハッピー おなががすして
いたのかも。

あしたの朝の見回りで
ペンギンを見に行こう。
ボールペンとれたよかった。
なおよしいらしいな。

（め）日記を書いているとき、おうちに入っているときの
気持ちをそう書くしよう。

きょうのちりよつについて、
くねくね書く。
ワラビーがたすかてふみた
だれの日記からしよう。
大じなことを書いて
おこつ、思ひ出でなき、
ほつとした。
同じことがあったとき、いかにその。

とづつとづつ園のじゅつい
うさだみや文

ちゃんとあらわないと
町のみんながびよつ気に
なってしまう。
みんなにカキせんせやない
よつにしよう。
どつどつみんなが人に
うつてしまわないように。

今日の おわり 毎日	みんな	日記を 書く	同じよつなびよる やけがあたとき、 よりよちりやうが できるから
おうちに 入る	人間のびよるものに なるものがつてい ることがあるから	きょうの、きょう ちりやう 気がだ 大じなことを書く	びよるもの、ものに なるものを外に もち出さない よつに

どうぶつ園のしゅうい
うさだみや文

⑨ いそがしい日
日：四はしこのこと、四でおわる。
よやくへん、長い
へきる、おわり

たんのゴール
より分かりやすい教科書を
つくろう。
ひしゃの気もち、どうぶつへの思い
したことをくわしく

⑩ うさださんの思いがば
んかんじられるだんらく
をえらぼう。

○ わたしがえらんだだんらくは、
□ です。りゅうは、